

第2回 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議【議事概要】

1. 開催の状況

(1) 開催月日：令和6年8月26日（月）10:00～11:30

(2) 開催場所：県庁西庁舎6階 災害対策本部室

(3) 出席者：13名

※台風対応のため3名欠席

(海老名市教育部長、海老名市教育総務課長、海老名市学び支援課長)

2. あいさつ

- 議長の伊藤教育長（海老名市教育委員会）より、みんなでつくり上げるという考え方で、みんなの声を聴きながら進めていきたい旨、あいさつがあった。
- 花田教育長（神奈川県教育委員会）より、みんなでつくりあげていく、その過程の中で、学校の体制を整えていき、制度改正が必要であれば、県・国と話し合い、できることから着実にやっていきたい旨、あいさつがあった。

3. 報告

(1) 対話の場（6月）について【資料1】

- 事務局より、対話の場について、資料1に基づき、報告がなされた。

(2) 調査研究部会について【資料2】

- 海老名市就学支援課長より、第1回及び第2回の協議内容等について、資料2に基づき、報告がなされた。

(3) 海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会の進捗について【資料3】

- 事務局より、第1回及び第2回の協議内容等について、資料3に基づき、報告がなされた。

4. 議題

(1) 「対話の場」の9月以降の取組について【資料4】

- 事務局より、9月以降の対話の場の取組について、資料4に基づき、説明がなされ、その後協議を行い、資料のとおり確定した。

(主な意見)

- ・ この取組は「みんなでつくっていく」ということがキーワードになっている。6月の対話の場では、参加者が対話を通し、建設的な意見を発言していた。今後も、参加者が対話をしながらつくり上げていくという構造を意図的につくっていけるとよい。

- ・ 実際には「通常の学級の見直し」という言葉についても、丁寧な説明が必要になってくる。どのような言葉で説明していくか、考えていく必要がある。
- ・ 教育や、フルインクルーシブという言葉に興味のない方にどう伝えていくか、市内だけでなく、他市や、全国に向け、どう発信していくかを考えていく必要があるのではないか。

(2) 調査研究部会における検討課題について【資料5】

- 海老名市就学支援課長より、調査研究部会における検討課題について説明がなされ、その後協議を行い、資料のとおり確定した。

(主な意見)

- ・ 学級規模について、適正な人数であるか検討してほしい。
- ・ 具体的にわかりやすい数字を研究するだけでなく、どこを目指しているのかを明確にし、結果的にこれが必要であると説明できるように研究を進めていけるとよい。
- ・ 就学については、なぜ特別支援学校への希望が増えているのかを研究してほしい。特別支援学校の手厚さに魅力を感じる方もいるが、地域の学校には、子どもたちが学び合う部分もある。地域の学校を選択できるように、研究を進めていけるとよい。
- ・ 特別支援学校と、地域の小中学校の設置者である教育委員会とが連携すれば、地域の学校を基本に考える就学相談を進めることが可能になるのではないか。

(3) その他

- 外部評価について、選定については、事務局で検討し、議長に諮ることを確認した。
- 構成員から全体の内容について、次の発言があった。

(主な意見)

- ・ 学習評価について、フルインクルーシブ教育を進めていく上で、子どもの学びをどのように受け止め、どのようにフィードバックをしていけるかを考えていきたい。
- ・ 今議論していることが、今後当たり前になっていくとよい。
- ・ 現状において、特別支援学校の方が手厚い、という声が出るのは事実である。今までのシステムを大きく変え、ロングスパンの議論が必要である。

5. 事務連絡

- 第3回推進会議は、令和7年2月3日(月)にえびなこどもセンターで実施予定

以上